



◇「木曽ヒノキ備林」

「東濃署」当署が管理している加子母裏木曾国有林には、樹齡が三百年以上で日本の代表的な銘木である木曽ヒノキの天然林が約七三〇ヘクタールあります。

この森林は、戦前まで「出ノ小路神宮備林」と称され、二十年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮のため必要な用材を確保するために定められた「造宮材備林制度」に基づいて取り扱われてきました。戦後（昭和二十二年）の林政統一によって、当時の御料林は国有林となり、現在の憲法によって特定の宗教に対する国の保護措置を廃止する趣旨から、ほぼ四十年間存続したこの制度は廃止されました。

その後、我が国の文化財的貴重な建造物などの修繕等に用いる特殊な大径材を供給できる森林は国有林にしかないことから、優れた木曽ヒノキを供給する森林、又は学術参考のために供する森林として再編し「木曽ヒノキ備林」と改称して維

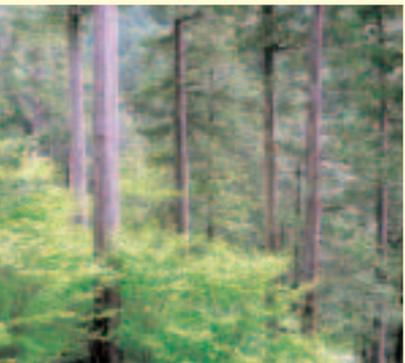
持管理しています。

現在、「林木遺伝資源保存林」を設定して貴重な遺伝子の保護をしているほか「木曽ヒノキ択伐施業群」に位置づけ、伊勢神宮などの神社・仏閣や城郭等の修復用材等を計画的に出材するなど、木の文化の維持にも役立つよう努めております。

◇アクセス方法

国道二五七号線中津川市付知町「付知峡口」から市道に入り宇峠ゲートを経て現地に至る。

（現在一般車通行止めの為、宇峠ゲートより現地まで徒歩・約三時間（約十km）



「勇壮な木曽ヒノキ備林」

